

平成 29 年度第 3 回伊勢市総合計画審議会 議事要録

◆日時 平成 29 年 10 月 2 日（月）19：00～20：30

◆会場 シンフォニアテクノロジー響ホール 4 階 大会議室

◆出席委員

山本 誠委員、森 裕美委員、美濃 松謙委員、竜田 和代委員、山本 康史委員、
西村 純一委員、西村 幸泰委員、浅野 聡委員、三村 和也委員、新田 均委員、
重松 玲委員

◆欠席委員

池田ミチ子委員、永井 正高委員、酒徳 雅明委員、岩崎 良文委員、

◆出席職員

情報戦略局【情報戦略局長、情報戦略局参事、同企画調整課課長補佐、同課主査 2 名】

環境生活部【環境生活部長、環境生活部参事】

教育委員会【教育事務部長、学校教育部長】

健康福祉部【健康福祉部長】

危機管理部【危機管理部長】

産業観光部【産業観光部長、産業観光部理事】

都市整備部【都市整備部長、都市整備部次長、都市整備部参事】

上下水道部【上下水道部長】

経営推進部【経営推進部長】

消防本部 【総務課長】

◆内容

- (1) 前回の振り返り
- (2) 第 2 次伊勢市総合計画の進行管理について
- (3) 基本構想（案）について

◇会議録（要録）

以下の要録は、事務局により要旨を編集したものです。微妙なニュアンス等が表現されておきませんので、ご了承ください。

○第2次伊勢市総合計画の進行管理について

・【第3章第1節】測定指標「資源化率」の実績が低いのは、指標の算出方法のどの項目の数値がダメだからこういったことになっているのか？

→全体のごみの量が減っているものの、資源化されるごみの量も減っているため、実績が目標どおり達成できなかった。

→→1次の総合計画から「資源化率」が指標としてあがっていたが、低い数字のままであった。一人当たりの回収量が低いことが原因となっていると思うが、24年度に再生資源回収事業奨励金がキロ単価6円から3円になった。これが燃えるゴミが増える原因になると担当に言ったことがある。ごみの処理場を検討しているようであるが、投資と効果を検討して欲しい。

・「基本構想」の市民への浸透、「基本構想」から「基本計画」への繋がり、特に若い世代に浸透するよう意識をもって組み立てて欲しい。民間の調査会社によると、企業理念が浸透した会社は業績も上がって、活気がある。国の大きな施策（例えば教育でいうと人材育成など）との整合性をとってほしい。問題解決を担っている人が活躍していることが目に見えるように目指して欲しい。総花的にやってはダメで、選択と集中をして取り組んで欲しい。

○基本構想（案）について

・「まちの将来像」を見ると伊勢市でなく他の市町でも使えるような言葉になってしまっていると思う。また、「みんなが」という言葉は誰を指すのか（自治会、子ども達、在住者、観光客など）。主体を具体的にした方が良いと感じる。

第1次、第2次からの基本理念の踏襲といったことについては、賛同もできるし、案を見ると大きくズレもないが、修正した部分に少子高齢化などが反映されているかといえばあまりピンと来ない。今までの基本構想のほうが、「伊勢」ということが伝わると思う。「伊勢」だとわかるキーワードを含めて欲しい。

・普通のキーワードになってしまった感じで、このままだと何処の町かわからない。また行政のキーワードか、市民団体のキーワードかも良くわからない。「伊勢」らしい言葉を入れ、もう少し今後に対する危機感を謳った方が良い。基本構想と課題の整理といった部分や基本計画を同時進行に考えていった方が良いのではないかと。

→当初の予定では、理念的な「基本構想」の骨格を決めてから、それに沿った形で施策である「基本計画」を策定していく流れを考えていた。2月にパブリックコメントを予定しているため、1月までに「基本構想」案、「基本計画」案を作成する予定で考えている。住民自治といった部分と調査などで多かった過去から未来への「つながり」、地域での「つながり」といった部分を加味し作らせていただいた。まちづくりの基本理念の導入部分で危機感に触れ、基本理念の中で「伊勢」については触れては

いるが、まちの将来像には「伊勢」の色が薄いため、検討したい。基本構想は理想的なものだけにし、現況、課題の整理は具体的な基本計画の中で記載する予定である。

・地方自治法改正前は、議決が必要だったため、少し前の基本構想は、基本計画の骨子（概念）が基本構想に入り、伊勢市の目指す姿がわかりやすかった。法改正後は、基本構想はキャッチフレーズになってしまった。基本計画の序章で、人口フレームや主要計画のキーワードがでてくるので、基本構想と基本計画の序章をあわせて議論ができればわかりやすいのではないか。

・基本構想が個々の施策にどのように反映されているかが、今までの第2次計画ではよく分からなかった。例えば「つながり」が大事であれば、各施策で何と何をつなげるのか、また「私たちが担う」というのであれば誰が担うのか、施策でわかりやすく明示すると、理念が反映された施策になるのではないか。そのうえで、伊勢らしいキーワードはどこかで入れるべきだと思う。

・「人と人とのつながりで活力と安心を生むまち」とあるが、「生む」のはなく「感じる」とした方が良いと思う。

・この3つのまちづくりの基本理念は誰が決めたのか、市職員皆で考えた理念か。熱い思いが感じられず、私たちはピンとこない。

・3つの基本理念で内容が重なっている部分があり、どの部署が責任をもってやるかが分かりにくい。3つの基本理念の内容の差別化と、それぞれの基本理念の下に、どのような章がぶらさがるのかが分かるようにした方がよいと思う。

→基本構想の基本理念は、行政だけではなく、全ての主体のいろいろな物事のベースとして、複雑に絡んで、すすめていかないといけないと考える。一方、基本計画は、行政が責任を持って進める施策であると考えている。

・安易ではあるが、まちの将来像に「伊勢」という言葉を付け加え、「…つながりのまち伊勢」としてはどうか

「神宮のまち」というが「神宮」が具体的な施策で出てくるのは「観光」だけであり、「学校教育」には出てこない。「地域愛」も「観光」で掲げ、「学校教育」では出てこない。国の施策では、学校が地域コミュニティの核になるべきであるとされ、地域に人を残すには地域教育が必要だということになってきた。まちづくりの基本理念が教育にも一貫して反映されるような施策が必要だと思う。

・「私たち」、「つながり」と言ってしまうとザックリ終わってしまう。「私たち」が誰を指すのか、「つながり」は誰と誰をつなげるのか、施策ではっきりされと思うが、基本構想の「まちづくりの基本理念」でもそれらがイメージできるようにしておかないと、基本構想と基本計画がつながらないと思う。3つの「まちづくりの基本理念」の柱はこれでいいと思うが、伊勢だったらこの柱はこのような意味であると分かるように内容を深めて欲しい。

・3つの「まちづくりの基本理念」はこれで良いと思う。皆がそれぞれ考えていることを、全て取り入れるのは難しいと思う。3つの基本理念の柱をベースに内容を深めてもらったら良いと思う。

→3つの基本理念に則り、基本計画（案）の策定作業に入っていきたい。

・市民の思いをただ並べたような計画ではなく、各担当部長が責任を持って進めていただける基本計画（案）の作成を要望したい。

○今後について

・次回の第4回会議は、11月下旬を予定しており、基本構想の修正案と、進行管理や市民意識調査等の結果、また本日のご意見等を踏まえた基本計画案をお示しし、ご協議いただきたい。第4回の審議会については、市長選挙後の11月下旬を予定。

・第2次総合計画の進行管理、本日の基本構想（案）に関し、ご意見があれば、10月11日（水）までに事務局までお願いする。